

文化センターの正面

市民センター全施設が完成 市民芸術活動の場誕生

文化センター・オープン

ことし春から工事が進められてきました文化センターが完成、十月三日文化の日に合わせて盛大に落成式が行なわれました。

このセンターの誕生で、三カ年がかりで進められてきた(留萌市市民センター)の全施設がそろったわけです。

文化センター、スポーツセンター、公民館、教育総合センターと

四施設が完成し、これで市民センターとして、文化体育など市民活動の場として利用が期待されます。

この文化センターは、総面積千六百三十七坪、観客席八百二十八席(補助席使用で千人収容)と大きなもの、舞台(ステージ)は四百七十三平方坪で一度に大人で七十七人の人が並んで立つことができます。

舞台の手前にはオーケストラピットがあり、最高の音響効果を得ようとして設計されています。

広々としたロビーとホワイエは併せて二百二十七平方坪に、色とりどりのシャンデリアが輝やいています。

投光室にはシーデインライト十台、放送室にはマイクホン四本、ワイヤレス二本、テンプ、ミ

キサーなど、最新鋭の器具が備えられています。

楽屋にはリハーサル室二室の他、大道具室もあり、芸術活動などに必要な施設は、ほぼ備えられています。

また、舞台を色どる中に、緞帳があります。真赤な太陽に青い留萌の海を色どった豪華なもので横十五尺、立七・二尺もあります。

このセンターは、留萌市内の芸術活動をする人の他、管内の人たちからも完成が待たれていたものです。

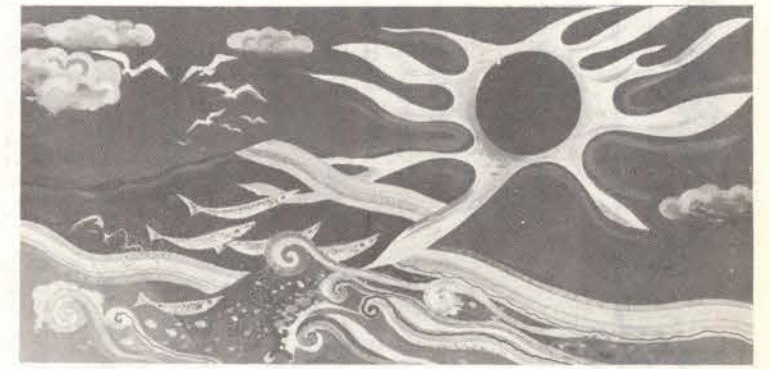
これで、体力と健康を守るため

虹の中に海草、貝、そして男達はかつて栄光の輝に始まる海の幸として日本海のイメージである。市のシンボルマークであるかもめの群は、港と加工場の街には欠かすことのできない立役者なのだ。

私の願いは、かつてこの前人未踏の北の国の西の海辺へ、野山をわけ入り、あるいは波頭を越えて渡来して、営々と開拓の礎を築きあげた誇り高い先駆者達には過ぎ去ったその日の宝庫には過ぎないで、さらには今、中興の足跡を残しつつある壮年の人達には幼い日々を回想と、母としての海メルの日々を。これからの若い人達には新しい世代に生きる力強いはばたきを。



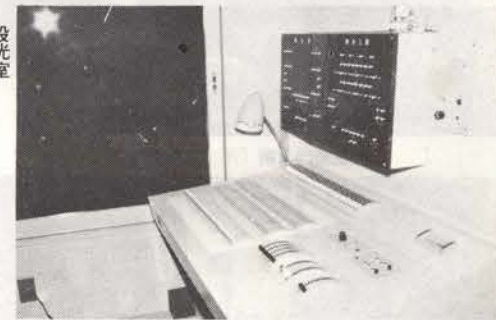
広びろとしたロビー



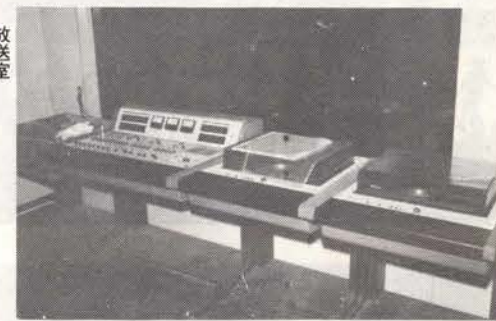
留萌の海の青さに自然がいっぱいのどん張

のスポーツセンター、市民のための教養をつちかっていただく公民館、そして芸術活動などのための文化センターが完成したわけですから、自然の味をかした緞帳

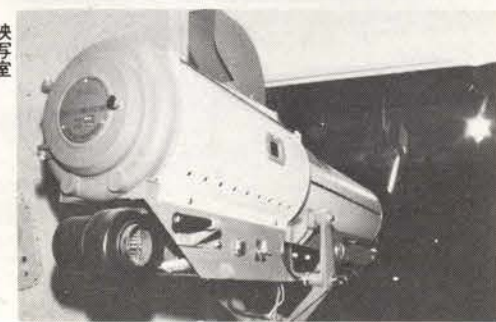
画家 清水 康雄



投光室

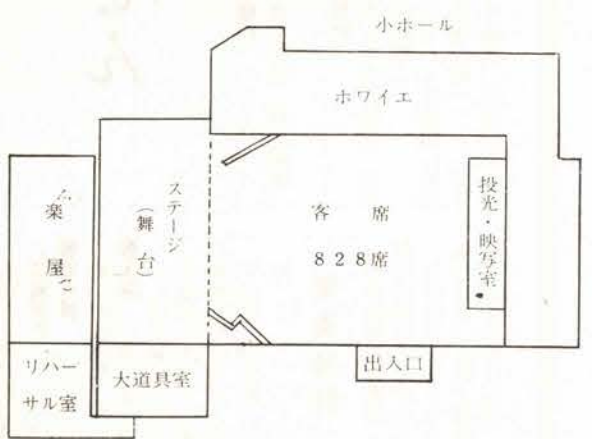


放送室



映写室

文化センター平面図



一般使用料

使用区分	期間区分	午前				午後				夜間				全日						
		午前	午前	午後	午後	午後	午後	午後	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後			
大ホール	教育、文化、福祉活動等資料を目的としないものに使用する場合	入場料等を徴収しない場合	平日	日	3,000	6,000	10,000	18,000	4,000	8,000	11,000	20,000	3,900	7,800	13,000	20,000	5,200	10,400	14,300	26,000
		入場料等を徴収する場合	平日	日	6,000	12,000	20,000	36,000	8,000	16,000	22,000	40,000	7,500	15,000	25,000	45,000	10,000	20,000	27,500	50,000
	商業宣伝、興業等資料を目的として使用する場合	入場料等を徴収しない場合及び500円未満の入場料等を徴収する場合	平日	日	7,500	15,000	25,000	45,000	10,000	20,000	27,500	50,000	1,000	1,500	2,000	4,000	500	800	1,000	2,000
		500円以上の入場料等を徴収する場合	平日	日	1,000	1,500	2,000	4,000	1,000	1,500	2,000	4,000	500	800	1,000	2,000	500	800	1,000	2,000
その他	ホワイエ(展示場として使用する場合)																			
	楽屋																			